



J A須高山共撰所
はこのほど、地域ブラ
ンド「信州高山さわや
かりんご」の中のプレ
ミアム級リンゴを販売
するための専用カラー

箱を作った。

これまでも共撰所独
自に茶箱から白箱に変
えて他産地との差別化

JA高山共撰所

プレミアムリンゴ 専用の箱で販売

を図ってきたが、今度
は消費者もびっくりの
全面カラー印刷。減農
薬栽培やエコファーマ
ー認証取得の説明に加
え、高山村の四季の観
光スポットも載せた。
裏底まで観光マップに
なっている。

シナノスイートとサ
ンふじの二種類を十キ
入り一万二千円〜一万
三千元。五キ入り六千
五百円〜七千円で村内
の直売所で販売中(サ
ンふじは完熟する十一

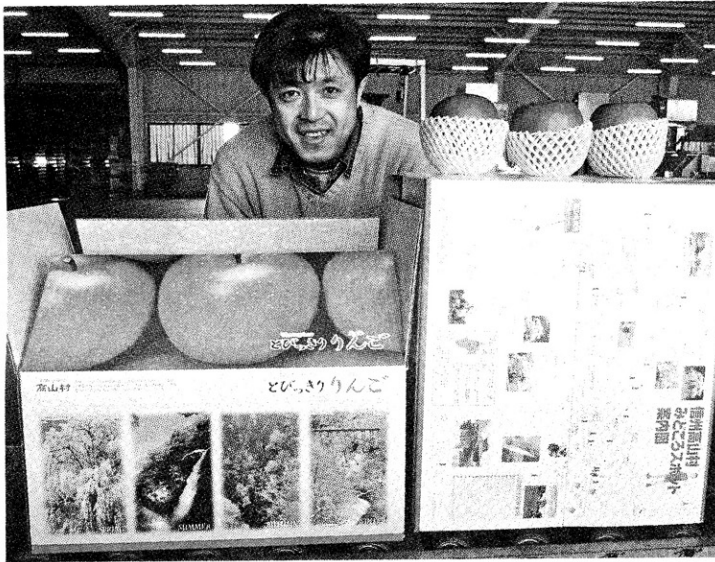
月二十日すぎから)。
昨年の同共撰所の最高
値は十キ六千八百円だ
ったので二倍になる。

出荷しているJ A須
高りんご部会高山支部
(西原滝雄支部長、二
百四十四人)は「こと
しは全体で十五万五千
ケース(十キ箱)が目
標。高齢化で出荷量は
年々減少傾向にある中
で、消費者の高級志向
に対応していく。いい
物を相応の値段で売り
たい」と話している。

極上ものを選抜 全面カラーの箱

リンゴ、受ける高級路線

箱の上部と側面⑤、裏側には地図を印刷。リンゴには3色のキャップを付ける



長野・JA須高

長野県のJA須高高山支所とJAリンゴ部会高山支部は昨秋、最高級の等級「プレミアム・ゴールド」を設けるとともに、全面カラー印刷の段ボール箱を開発、贈答用に活用している。1箱10キロで1万3000円だが、高級品を望む消費者の需要を掘り起こし、初年度から計画を大幅に上回る注文を受けている。

アイデアを出した同支所営農経済課の小林和弘係長(38)は「一昨年、消費者から、もっと高いのはないかと言われたのがヒントだった」と話す。

当時、支所の共選所では特秀より上の等級を設けていたが、高いもので10キロ当たり7000円。他産地などでは倍の値段のものも販売していた。上級クラスの品を客に納得してもらう形で売り出そうと、小林さんが企画したのが最上級のリンゴの中から極上のものを選んだ「プレミアム・ゴールド」と、底も含めて全面カラー印刷の段ボール箱だ。箱はリンゴの花や四季の写真を印刷し、底には村の地図を入れた。「プレミアム・ゴールド」と箱は、10月出荷の中生種「りんご3兄弟」から導入。値段は送料込みで10キロ箱が1万3000円、5キロ箱が7500円。テレビで取り上げられたこともあり、この最高級品を含むカラー箱入りの高級品は高い方から売れ、500キロがすぐに売り切れた。晩生の「ふじ」も同じ値段で売り出し、こちらも高額な方から品切れになる人気ぶり。「最高級を含むカラー箱の高級品は5キロが600箱、10キロも600箱近く出た」と小林さんは話す。

リンゴ部会高山支部の西原瀧雄支部長は「高くてもうかと思っただが、須坂の工場経営者が買ってくれた。箱も好評だった」と振り返る。小林さんらは「来季は価格も包装もさらに上のものを作りたい」と張り切る。

計画上回る売れ行き